



平成 30 年度 アンケート調査 (せきのまちづくり通信簿) 調査結果 【結果報告書・概要版】

調査の目的

「平成 30 年度アンケート調査 (せきのまちづくり通信簿)」は、総合計画に基づく関市のまちづくりをより着実に推進するため、関市民のまちづくりへの意識等を把握し、政策への反映に生かすことを目的として実施しました。

調査の概要

- **調査対象者** 平成 30 年 12 月現在、関市に居住している 16 歳以上の市民 3,000 人
- **調査期間** 平成 30 年 12 月 27 日から平成 31 年 1 月 11 日まで
- **回収方法** 調査票による本人記入方式
郵送による配布、郵送による回収
- **回収結果** 1,186 票 (回収率：39.5%)

● 報告書の見方

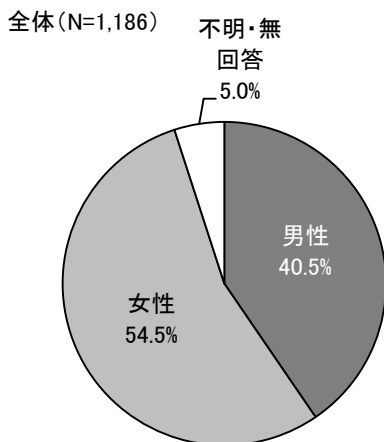
- ・グラフ中の「N」とは、Number of Cases の略で、各設問に該当する回答者総数を表します。
- ・グラフ中の「%」は、小数点第 2 位以下を四捨五入しているため、単数回答の設問 (1 つだけに ○ をつけるもの) であっても、合計が 100% にならない場合があります。

1

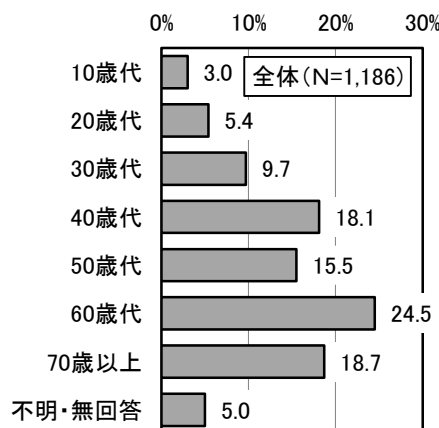
回答者の属性

回答者の性別は、女性がやや多く、回答者の年齢は 60 歳代が最も高くなっています。また、回答者の居住地区は「関地域」で 77.7% と高くなっています。

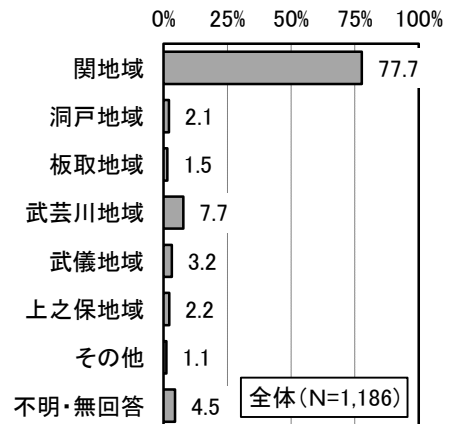
● 回答者の性別



● 回答者の年齢



● 回答者の居住地区

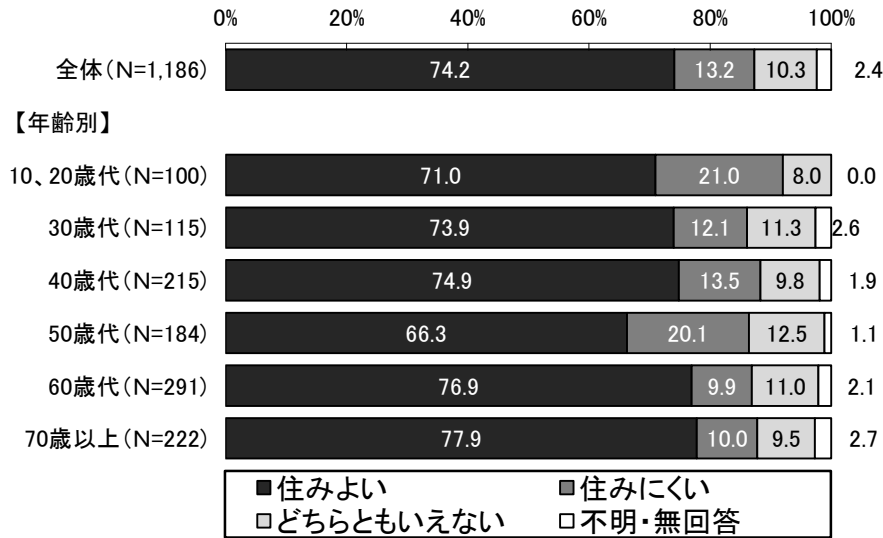


2

関市への居住意向について

回答者の74.2%が、関市を「住みよい」と感じています。年齢別でみると、いずれの年代でも『住みよい』が高くなっていますが、10、20歳代、50歳代ではやや『住みにくい』と回答する割合が高くなっています。

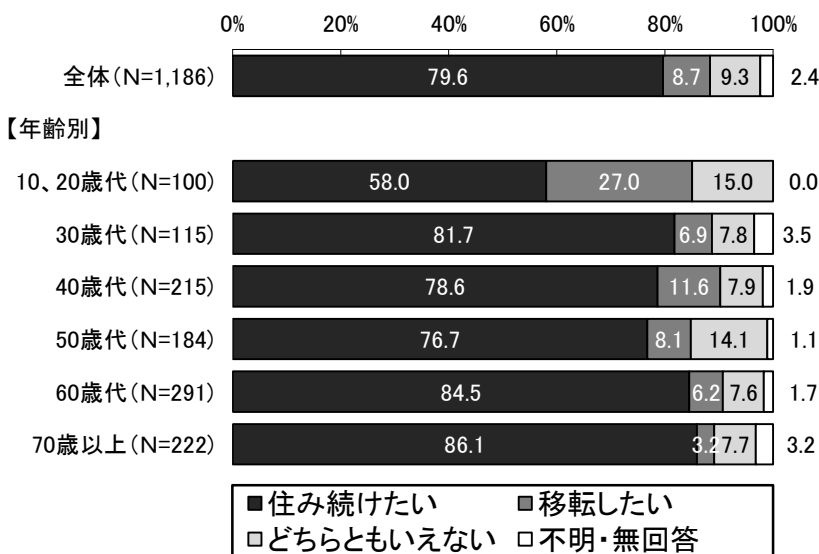
●あなたは関市が住みよいまちだと感じるか



※『住みよい』は「住みよい」と「どちらかといえば住みよい」の合算、
『住みにくい』は「どちらかといえば住みにくい」と「住みにくい」の合算。

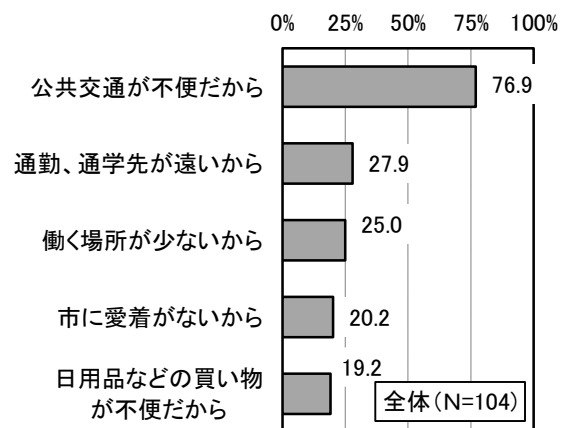
関市への居住意向については、全体の79.6%が『住み続けたい』と回答しています。年齢別でみると、30歳代、60歳代、70歳以上で居住意向が高く、8割を超えています。また、『移転したい』と回答した人にその理由をたずねたところ、「公共交通が不便だから」と回答する割合が76.9%と高くなっています。

●あなたは今後も関市に住み続けたいと思うか



●移転したいと感じる理由<上位5位>

(※『移転したい』を選んだ方)



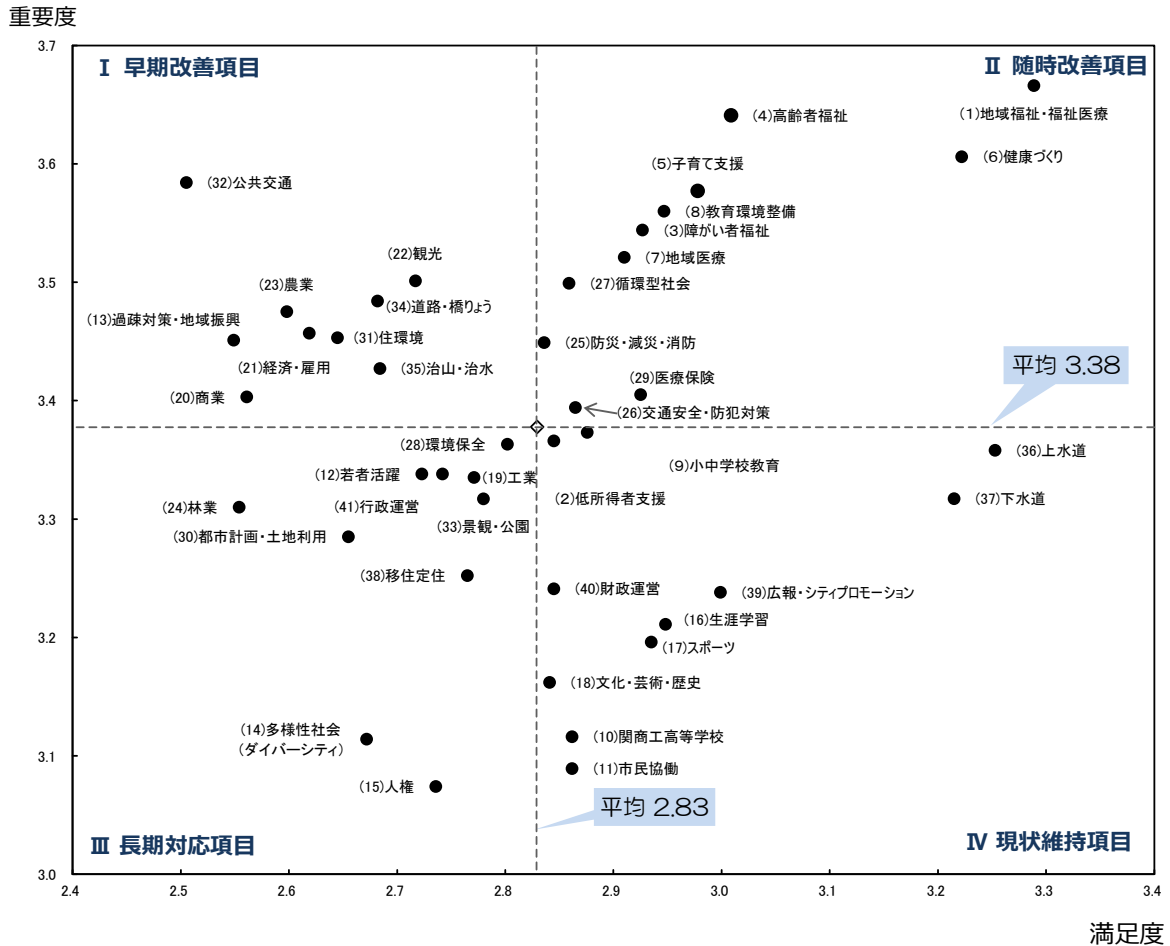
※『住み続けたい』は「ずっと住み続けたい」と「当分は住んでいたい」の合算、
『移転したい』は「できれば移転したい」と「すぐにでも移転したい」の合算。

3

施策の満足度・重要度について

施策の満足度、重要度（市が積極的に推進するべきかどうか）は次のようになっています。

● 施策の満足度・重要度のポートフォリオ分析



| | |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>I <早期改善項目> (重要度は高いが、満足度は低い) 施策の推進や改善に対するニーズが最も高い施策です。 ⇒人やコストをかけてでも推進すべき施策です。</p> | <p>II <随時改善項目> (重要度が高く、満足度も高い) 推進すべき施策であると認識されているが、現在の取組にも満足が得られています。 ⇒満足度の水準を維持していく必要がありますが、そのうち特に満足度の高い施策は、コストや他の市と比較して過大になっていないかなどを確認し、効率化が求められます。</p> |
| <p>III <長期対応項目> (重要度が低く、満足度も低い) 施策の推進に関するニーズが低く、現在の取組にも満足を得られていない施策です。 ⇒施策を抜本的に見直す必要があります。従来の取組の方向性の改善や、廃止を検討するとともに、施策の認知を高める取組が必要です。</p> | <p>IV <現状維持項目> (重要度は低く、満足度が高い) 施策の推進に関するニーズは低いが、現在の取組には満足が得られています。 ⇒現状の取組に満足していることが考えられます。そのうち、要注力度が低い施策にあっては、人やコストの縮小を検討する必要があります。</p> |

4

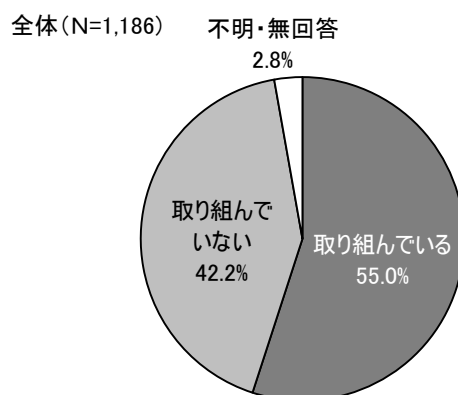
まちづくりへの意識と取組について

●健康づくりへの取組について

健康づくりへの取組について、『取り組んでいる』が55.0%、『取り組んでいない』が42.2%と、取り組んでいる割合が高くなっています。

※『取り組んでいる』は「取り組んでいる」と「どちらかといえば取り組んでいる」の合算

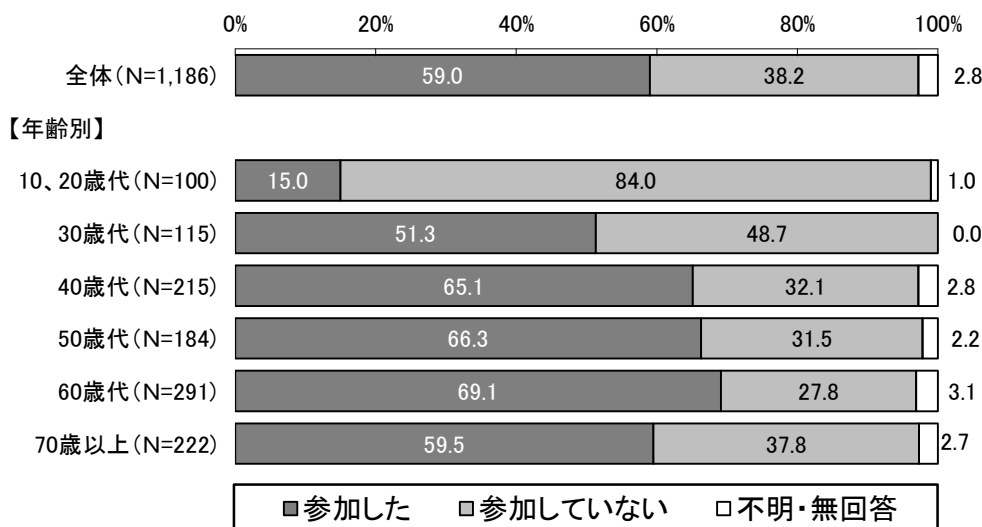
※『取り組んでいない』は「取り組んでいない」と「どちらかといえば取り組んでいない」の合算



●地域活動(地域委員会や自治会の活動など)への参加経験

地域活動(地域委員会や自治会の活動など)への参加経験について、全体では「参加した」と回答した割合が59.0%となっています。

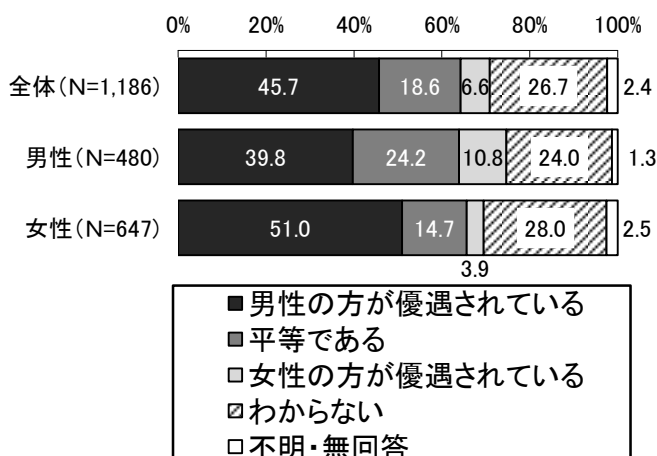
年齢別にみると、10、20歳代で「参加していない」と回答した割合が84.0%と、他に比べて高くなっています。また、30歳代から60歳代にかけて、年代があがるにつれて「参加した」と回答した割合が高くなっています。



●男女の地位の平等意識について

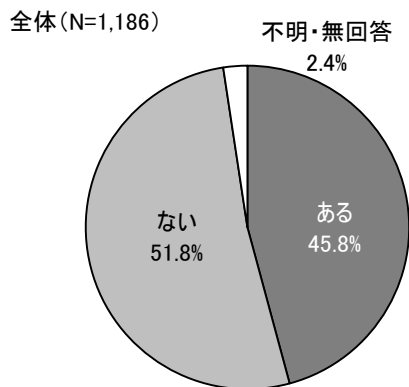
男女の地位の平等意識について、「男性の方が優遇されている」と回答した割合が45.7%と最も高くなっています。

男女別にみると、女性では男性よりも「男性の方が優遇されている」と回答した割合が高くなっています。



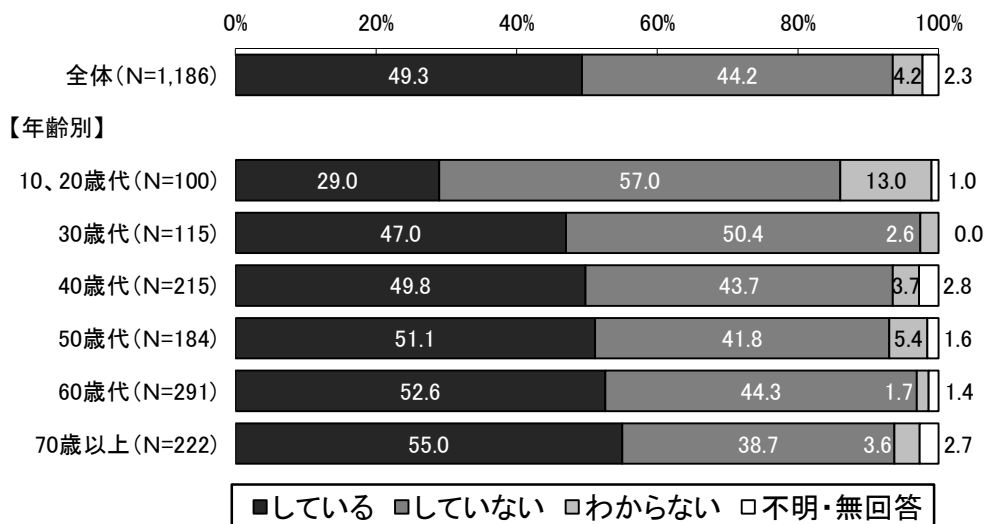
● 芸術文化鑑賞について

過去1年間の芸術文化を鑑賞した機会について、「ある」と回答した割合が45.8%、「ない」と回答した割合が51.8%と、「ない」が「ある」を上回っています。



● 災害に対する備えについて

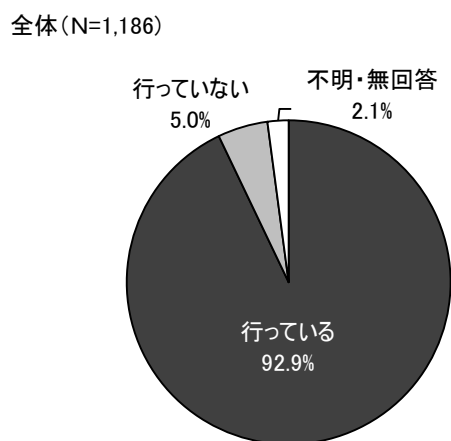
非常持出袋や食料の備蓄など災害に対する備えについて、全体の44.2%が「していない」と回答しています。年齢別にみると、年齢が上がるにつれて、「している」と回答した割合が増加しています。また、10、20歳代では「していない」と回答した割合が57.0%と、他に比べて高くなっています。



● 環境に配慮した取組について

環境に配慮した取組について、『行っている』が92.9%と、大部分の人を占めています。

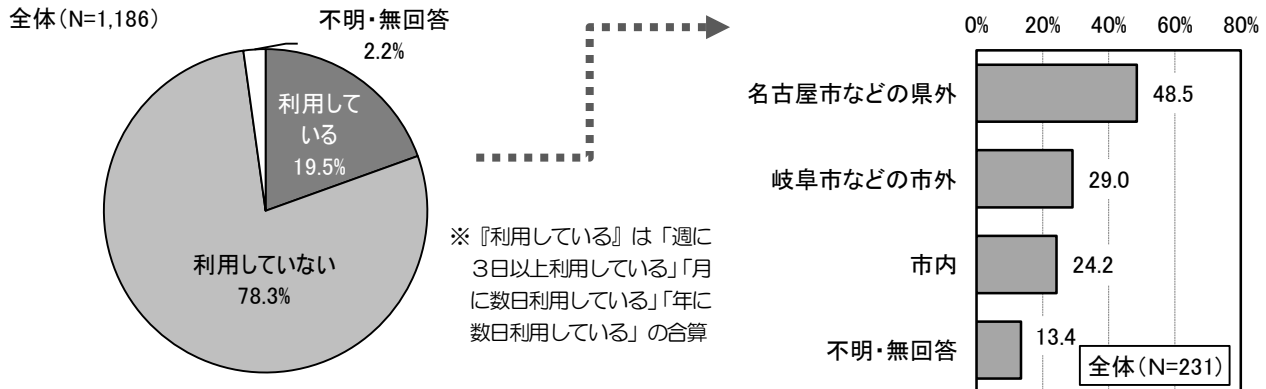
※『行っている』は「行っている」と「どちらかといえば行っている」の合算
 ※『行っていない』は「行っていない」「どちらかといえば行っていない」の合算



●公共交通の利用について

●公共交通を利用して主にどこに行くか(※「利用している」を選んだ方)

公共交通の利用について、『利用している』と回答した割合が19.5%、「利用していない」と回答した割合が78.3%となっています。また、公共交通を利用して行く場所では「名古屋市などの県外」が48.5%と最も高く、次いで「岐阜市などの市外」が29.0%、「市内」が24.2%となっています。

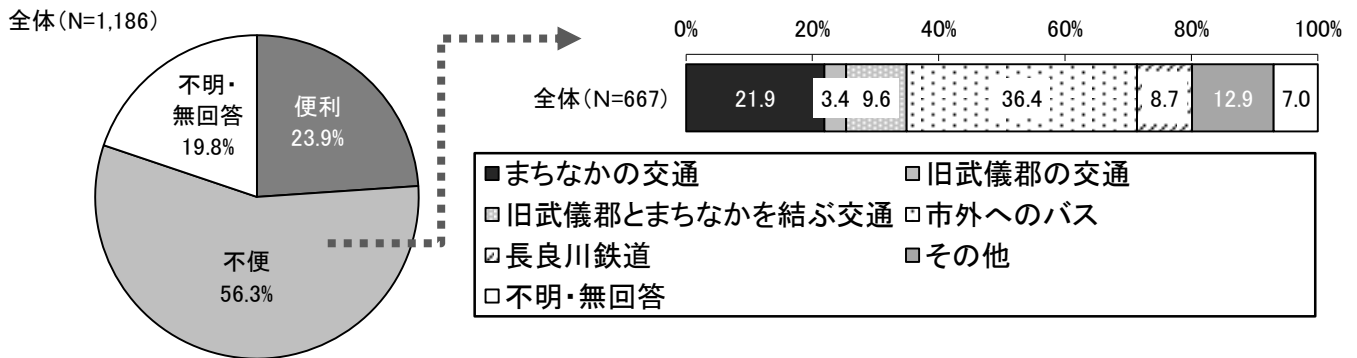


●公共交通の利便性について

●公共交通の利便性について、具体的に不便に感じているところ(※『不便』を選んだ方)

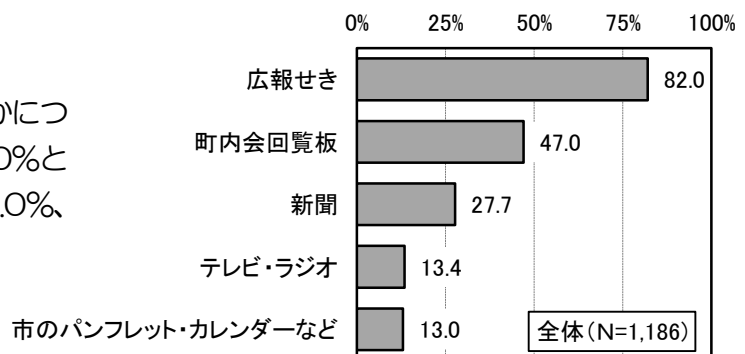
公共交通の利便性について、「便利」と回答した割合が23.9%、「不便」と回答した割合が56.3%となっています。

公共交通の利便性について、具体的に不便に感じているところは、「市外へのバス」と回答した割合が36.4%と最も高く、次いで「まちなかの交通」が21.9%となっています。



●市政に関する情報源について<上位5位>

市政に関する情報をどこから得ているかについて、「広報せき」と回答した割合が82.0%と最も高く、次いで「町内会回覧板」が47.0%、「新聞」が27.7%となっています。



平成30年度アンケート調査(せきのまちづくり通信簿)【結果報告書・概要版】

発行年月 平成31年3月

発行 関市 / 編集 関市市長公室企画広報課

岐阜県関市若草通3丁目1番地 TEL:0575-22-3131(代表)

FAX:0575-23-7744